

千代田区との主な交流事業

◆児童や生徒による交流

野球、剣道、ミニバスケットボール、水泳の交流試合などスポーツ交流が本町と千代田区を会場に行われています。平成22年からは、千代田区民有志が企画・引率者となり、本町と千代田区の小学生を対象とした児童交流を毎年行っています。

◆防災に関する交流

本町と千代田区は、災害時における相互応援に関する協定を結んでいます。防災訓練などを実施する際には、救援物資の提供や訓練への参加などにより、相互に防災意識を高めながら交流を図っています。

◆各種イベントへの参加

千代田区民体育大会、全町体育祭や千代田区さくらフェスティバル、きゃどっこまつりなどへの参加を通じ、住民と行政相互の交流を図っています。

◆住民自主交流など

●スポーツを通じた交流

両自治体の弓道連盟、卓球連盟のほか、千代田区の麴町野球会と五城目500歳野球会がそれぞれ交流親善試合を行っています。また町陸上競技協会は「千代田区内環周回駅伝大会」へ参加しています。

●経済を通じた交流

平成22年から、千代田区内の小学校で学校給食に五城目産の米が使用されています。

また、平成24年からは千代田区のちよだプラットフォームスクエア内「市町村サテライトオフィス東京」に「五城目町東京事務所」を設置し、本町への移住や起業を推進しています。



8月24日と25日には、五城目小グラウンドで学童野球交流会が行われました。



式典では、町民と千代田区民の代表者による鏡開きも行われました。



児童交流活動の紹介を行った□□さん㊦、津田さん㊦と、経済交流活動についての紹介を行った丑田さん㊦。

様々な交流活動を通じ 深め合った相互の絆

本町と千代田区との交流は、昭和61年から始まり、両地域の小学校による交流や伝統芸能の交流、総合防災訓練への相互応援などが行われるとともに、住民同士の交流も進められ、大きな友好の輪へと発展してきました。

豊かな自然の中で、歴史と伝統を

ハバタク代表取締役の丑田俊輔さん（紀久栄町）、五城目町・千代田区子ども交流会支援員の津田真知子さん（千代田区）、過去に児童交流事業に参加した□□さん（五城目一中3年・下高崎）の3人がそれぞれ活動を紹介しました。

育んできた本町と、近代日本の歴史の中心地として歩み続け、優れた都市機能と個性豊かな伝統文化を備えた千代田区が、それぞれの地域特性を生かし、共に学び、助け合いながら、さらに広範な交流を推進し、住民福祉の向上と活力あふれる地域社会を築いていくため、平成元年10月26日に姉妹提携を結びました。

以来、スポーツ、各種イベントを通じた交流や、児童交流など住民主体の交流が活発に行われています。さらには、災害等における相互協力体制の整備とそれに基づく支援など、相互の理解と協力のもとに、幅広い交流が推進されてきました。

今後、この30年の交流を基盤として、互いの絆を深め、さらなる発展を目指していきます。



式典で握手を交わす渡邊彦兵衛町長、小林正志町議会議長、小林孝也千代田区議会議長、石川雅己千代田区長（左から）。互いの絆を深め、両自治体のさらなる発展につなげていくことを誓いました。

30年間の絆を礎に さらなる発展へ

千代田区と姉妹提携30周年 町民センターで記念式典を開催

9月6日、町民センターで「五城目町・千代田区姉妹提携30周年記念式典」を行い、各団体や両自治体の関係者ら117人が出席しました。

式典では、姉妹提携30周年の歩みを振り返り、渡邊彦兵衛町長が「これまでの友情と信頼の絆を胸に刻み、関係をより深めたい」と述べ、石川雅己千代田区長が「交流の歴史と文化を若者につないで、さらに発展させたい」と述べました。

その後、本町と千代田区の伝統工芸を生かした記念品の交換が行われ、千代田区からは伝統的なガラス工芸技法の江戸切子を使った「板装飾パネル」1組が、本町からは地元職人による「ケヤキの長机と椅子2脚」のセット3組が、それぞれに贈られました。

引き続き、近年の新たな取り組みである経済交流と児童交流について、千代田区と本町の交流がきっかけで移住し、町地域活性化支援センターに新拠点を設立した、株式会社



千代田区から来町した皆さんは、式典前に町地域活性化支援センターの視察を行いました㊦。式典会場では、五城目天太鼓の皆さんによる迫力ある演奏で千代田区の皆さんをお出迎え㊦。